



～活動の芽を育てよう！Yes！はじまりの合図～

eyes \*あいず\*



はまだたつろう

## 濱田龍郎さん

サラリーマンから脱サラして詩人の道へ！その後、スーパーマーケットの経営を始めたが倒産して、放浪の旅に。その時出会ったラーメン店で皿洗いをしていたが、後に、ラーメン店の経営を任される……。

まるで、ドラマのような人生を送っている、『NPO法人ボランティア仲間九州ラーメン党』理事長の濱田さんに、お話を聞きました。

## 運命の出会い

ラーメン屋を始めて4年目。店の近くに知的障がい者福祉施設ができることになり、工事の施設へラーメンを届けた時のことです。玄関で待っていると、少年が、何か大声で叫びながら濱田さんに飛ついてきました。濱田さんは、後ずさりするほどビックリしてしまい、怖くなって、その場でラーメンをこぼしそうになりましたが、それでも少年は、何かを言いながら、笑顔で手を差し出し、岡持ちを握って、先に歩き始めたそうです。これが、障がい者との初めての出会いでした。

少年の行動が、岡持ちを両手にさげている濱田さんのお手伝いをしたいという素直な気持ちの現れだったことを知り、「人は誰でも人のためにできることがある」と教えられたような強い衝撃を受けたそうです。

## 『人とは人のために生きてこそ人』

今回、表紙を飾っていただいた濱田さん。波乱万丈の人生を歩みながらも、人のために生きることを楽しんでいる。そんな、あたたかい人柄を感じました。

## 呼ばれれば、行くけども

この福祉施設での出来事がきっかけとなって、スープから鍋、釜、プロパンガスなどラーメン作りに必要な材料をワンボックスカーに積んで、三百ヶ所の施設などを回り、いろいろな方々にラーメンを提供していた濱田さん。

後に、このことが噂となって新聞やマスコミにも取り上げられました。自分は営業を目的としているのではなく、あくまでもボランティアとして行っているので困惑していたそうです。

しかし、様々な場所へ出向くことで、たくさんの人たちとの出会いがあり、濱田さんの呼びかけに賛同する人たちも現れました。その中には、濱田さんと同じくラーメン屋の亭主や生産農家の方もいらっしゃいます。こうして集まった仲間と一緒にグループを結成して活動の範囲を広げていきました。

そして、平成11年には、熊本県内で最初のNPO法人として認可され「NPO法人ボランティア仲間九州ラーメン党」を設立しました。

「人は、温かいものを食べる」と心が温かくなります！」と話された濱田さん。

ホームレスの人たちにも、「この気持ちで伝わっていけば良い」とお考えです。

今でも、就労を目指す障がい者の方のための福祉施設「そよかぜ福祉作業所」を運営する傍ら、高齢者の方や災害支援として被災地へ出向いてラーメンの炊き出しもされています。甚大な被害が発生した東北地方太平洋沖地震の被災者の方へあたたかい食事を提供しようという出発の準備をしているそうです。

炊き出しは、熊本のスタッフをあまり連れて行かず、出向いた現地のボランティアさんたちと協力して行うようにしています。現地の人たちと触れ合うことで、人と人との結びつきの大切さをより一層知ることができているからです。

## 詩人

いろんな場所へ出かけるためには、資金が必要です。そこで、濱田さんは、街の路上で以前から書いている「詩」を書いて、希望される方に販売し、そのお金を出張資金とされているそうです。そして、「詩人濱田龍郎」として、全国に「夢実行塾」を開校して、詩を教える活動もされています！

## ★取材後記★

「ボランティアは、やりたいからやっているだけ。それに、ただ働きではないんです。得るものはたくさんあります。ボランティアから得るもの、失うもの、それが私の活動の源なんです。」と濱田さん。

濱田さんのようにボランティアから得るものがたくさんあると考える人たちは、楽しんで活動しているようです。

「やりたいからやる」これが、ボランティア活動を長く続けていくコツなんだと思います。



**石原壽幸**：私がボランティアをはじめたのは、住んでいる町内に老人会がなく頼まれて老人会を作った活動していたときに、YMCAの夏祭りに竹細工の指導を頼まれたのがきっかけです。YMCAのワイズメンズクラブに入りました。その後、老人会は解散したがせっかくなので入ったワイズメンズクラブなので、このまま何かを続けたいと思って竹笛・水笛などを作り始めました。作り続けて20年が経ちましたよ。竹笛を吹いてみますか？

**岩田智美**：わあー！ハッキリした高音がでますね！

**石原照枝**：私は護身用に持っているんですよ(笑)

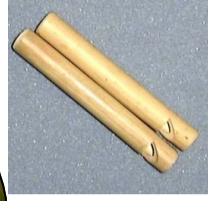
**壽幸**：私は元教員ですが、名刺代わりに「竹笛の石原です」と言ってお覚えていただきました。近所の子ども達には「竹笛のおじちゃん」と呼ばれて喜んでます。

**岩田**：小学生とかでも作れますか？

**壽幸**：竹笛は難しいけど、箸は作れますよ！簡単に作れる方法はいくらでもありますよ。

**照枝**：私のきっかけは、25年前に病気をした時に、主人が勤めていた学校から飼育したメダカをもらったことで、とても癒されてそこから「メダカの会」という会を作ってボランティアをはじめたんです。今では色んな施設などにメダカの卵を送っています。

**照枝**：ボランティアを始めて30年になります。被爆者などで被害者の団体で活動した後、メダカの会、新老人の会、みこころの会など、さまざまボランティアをさせていた中で、色々なお友達をつくりながら、自分のできることを命のある限り、させていたいです。決して自分一人で行っているわけではなくて、人と協力しながらすることが多いです。



**岩田**：育児サークル・ハグの平成21年度代表をさせて頂きました。産婦人科病院で知り合った人たちのサークルに参加したのが始まりです。その中でお友達もでき自分の世界も広がっています。サークルに参加された方とは必ず話す機会を作り、助産師さんなどの助けもかりて活動しています。元々、保育士をしていたこともあり、代表に就任したんですが、私が保育士をしていた時の知識と実際に子育てをしてみたら知識では違っていて、いまだにびっくりするのとばかりです。子育てをしてきた人にはかなわないと思います。

## ボランティア座談会

ボランティアをテーマに石原さん夫妻と岩田さんに活動のきっかけやこれからの活動について、気楽に語っていただきました。



いわた とみみ  
**岩田 智美 さん**



いしはらとしゆき てるえ  
**石原 壽幸さん・照枝さん**

**照枝**：ボランティアから学ぶことは多いですよ。

**岩田**：もうすぐ子どもが幼稚園に通い始めるので、いまのサークルを卒業することになるんですが、いま仕事もしていないし、これから社会との繋がりがりも少なくなるのかと、今からどうしようかと思っているところです。

**照枝**：ぜひうちでボランティアをお願いします！

**岩田**：ボランティアを始めるには、誰でも、すぐにできるものですか？

**照枝**：みこころの会の場合は介護をするので日赤病院などで介護に対する心構えなどの講習を受けます。

**岩田**：若い人たちが、子育て世代の人たちもいらっしやいますか？

**照枝**：いますよ。1週間のうちに自分が参加できる時間でもいいんですよ。私は16年以上続けています。毎日「感謝」の日々です。「ありがとう」という言葉が素敵と思いませんか？「ありがとう」を表現することは一番大事なこと。心の結びつきで出る言葉と思うんですよ。

**岩田**：そうですね。

### 「ボランティアにはハートが必要」

**照枝**：体験というのは、お金じゃないんですよ。経験することによって、自分も豊かになっていくんです。私は被爆者

なので、学校などで1時間授業をさせて頂いていますが子どもたちが、涙ながらに聞いてくれるんですよ。話には何が大事かというところ、ハートなんです。こういうことは若いうちはなかなか感じる機会がないかもしれないですね。体験からくるもので、言葉にしたら体験があるから重みがあり、真実が語れるんですよ。



### 「自然体が大事」

**壽幸**：私の個性と言えれば声が大いことなんです。人それぞれ個性があるから個性をいかして生活していくことが大切だと思っんです。そういう意味で自然体で続けられているのが竹笛だと思っています。

**岩田**：結婚して仕事を辞めて世界が狭くなった気がするんですけど、外に出たいなとは思っていませんが、何かを始める

のに年齢は関係ないんですね。子どもが生まれたことよって出来ないことばかりあるのかなって自分で思い込んでいます。

**照枝**：子どもに学ばされますよ。

**岩田**：そうですね。マイナスマンばかり見てしまっていました。が、これからはプラス思考でいきます。

**照枝**：そう。プラス思考で自分のためにしているんじゃないやなく、させて頂いていてるんですよ。いい人との出会いを楽しむことも嬉しいですね。

### 「一緒にできることを見つけて学ぶ機会を作りたい」

**岩田**：今日は、お二人の貴重な体験からくるお話やボランティアの心構えなどを聞くことができて、とても勉強になりました。ありがとうございます。これを機会に石原さんたちと、一緒にできること見つけて学ぶ機会を作りたいです。その時は、よろしくお願ひします。

**石原夫妻**：「こちらこそ、ありがとうございます。楽しんでます！」

♥ 貴重なお話をありがとうございました。さらなる御活躍をお祈りいたします ♥

(あいぼーと一同)

〒862-0971 熊本市大江5丁目1番1号 熊本市総合保健福祉センター ウェルパルクまもと1階

熊本市市民活動支援センター・あいぼーと

電話 096 (366) 0168 FAX 096 (366) 8830

〒860-8601 熊本市手取本町1番1号 熊本市役所12階

熊本市市民協働推進課

電話 096 (328) 2036 Eメール shiminkyoudou@city.kumamoto.lg.jp



eYesとは…

みなさんの目(視点・感性・思い)から生まれる活動(芽)に焦点をあてる情報誌です。